

新居浜市でウスキキノガサタケを確認

小林真吾

愛媛県総合科学博物館 学芸課

〒792 愛媛県新居浜市大生院2133番地の2

はじめに

ウスキキノガサタケ (*Dictyophora indusiata*) (写真1) は、スッポンタケ科キノガサタケ属に属する菌類の一種であり、これまで西日本の断片的な地域において生育が確認されている (今関・本郷, 1989; 近安, 1985)。

1995年9月8日付けの愛媛新聞紙上において、県内5例目となる同種確認の記事が掲載された。生育地は温泉郡川内町の山林で、約10個体が群生する希なケースであった。筆者は、同種の生育を新居浜市南部の山林において確認したのでここに報告する。

生育地の環境および生育状況

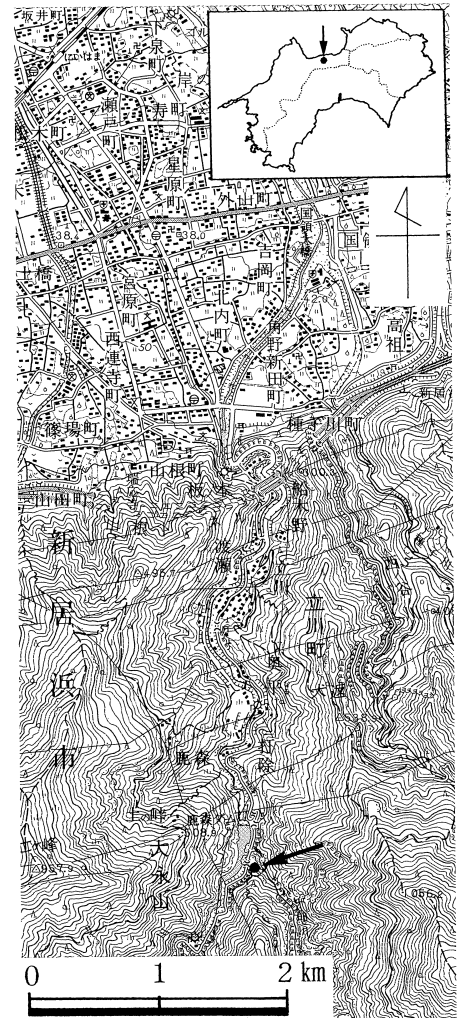
1995年8月14日、新居浜市を流れる国領川の支流である小女郎川の谷壁斜面林内において、植生調査中に同種を発見した (第1図)。

小女郎川は新居浜市南部の鹿森ダムに流入する河川であり、周辺は「遠登志溪谷」と呼ばれ、遊歩道が整備されている。生育地は、この遊歩道から約10mほど谷川に下った傾斜約40°、北向きの斜面であった。

森林を構成している植物は、高木・亜高木層ではアカシデ・ネジキ・リョウブ等、低木層ではアセビ・アオキ・カギカズラ・ヒサカキ等が優占しており、草本層ではシシガシラ・クルマシダを中心としたシダ植物が優占していた。草本層は単独～斑紋状に分布しており、発見個体の周囲には草本層の生育は見られなかった。

同種は単独で生育しており、周囲には他の個体の生育は確認できなかった。発見当時、菌網は湾曲している部分もあったがほぼ完全に開ききっており、菌網の一部は傘から脱落しかけていた。傘には暗緑色の粘液が付着し、特有の悪臭を放っており、ハエの仲間が多数飛来していた。

今回は菌体の成長過程等の経時変化および宿主等の調査を行うことはできなかったが、今後、同種の生育確認の機会があれば、生態的特徴を詳細に観察する必要があると考えられる。



第1図 ウスキキノガサタケ
確認地点

(図中の●印) 国土地理院発行1/50,000地形図「新居浜」より作成。

同定および写真撮影・提供でお世話になった愛媛植物研究会副会長の石川早雄氏，ならびに貴重なご意見を賜った愛媛植物研究会・日本菌学会会員の沖野富美雄氏に，記して厚く御礼申し上げます．

引用文献

今関六也・本郷次雄（1989）「原色日本新菌類図鑑Ⅱ」．保育社，大阪．222p.

近安和雄（1995）「四国のキノコ」．高知新聞社，高知．171p.

Plate



写真1 ウスキキノガサタケ（石川早雄氏撮影）